

大学連携で取り組む地域協働型 PBL の設計と評価

田中洋一^{*1, *2}, 山川修^{*3}

^{*1} 仁愛女子短期大学, ^{*2} 熊本大学大学院, ^{*3} 福井県立大学

Instructional Design and Assessment for Project Based Learning by University Cooperation

Yoichi Tanaka^{*1, *2}, Osamu Yamakawa^{*3}

^{*1} Jin-ai Women's College, ^{*2} Kumamoto University, ^{*3} Fukui Prefectural University

福井県の高等教育機関が連携する福井県学習コミュニティ推進協議会「フレックス」にて 2014 年度から実施している地域の問題を解決する PBL (Project Based Learning) 科目では, 学習者の内発的動機づけが高まるようにデザインベース研究アプローチで授業設計の修正を継続している. その結果として, 現在では, エンゲストロームの探求的学習の枠組み, デザイン思考のプロセス&マインドセット, リーダーシップ最小 3 要素等を融合させている. 本稿では, 2018 年度の授業設計とそのプロジェクト評価を報告し, PBL (Project Based Learning) やアクティブラーニングの有効な授業設計とその評価方法に関して議論したい.

キーワード: 地域協働学習, Project Based Learning, エンゲストロームの探求的学習, デザイン思考, リーダーシップ最小 3 要素, 内発的動機づけ

1. はじめに

福井県では県内の 5 つの高等教育機関が連携した福井県学習コミュニティ推進協議会「フレックス」が 2008 年度から継続的に活動している. 連携の強みを活かし, 各機関に属する学生がチームを構成し, 地域の問題解決に取り組む Project Based Learning 型授業 (地域協働学習) を 2014 年度から実施している. 本科目の到達目標は, 「内発的動機づけを高め, 自律的に学習できる」ことである. この目標を実現するため, デザインベース研究アプローチとして, 下記のとおり, 毎年授業設計の修正を行っている.

2014 年度は地域協働学習の試行として, 夏休み休暇中に事前学習 1 日&フィールドワーク (2泊3日) にて, 単位無しで実施した. 主体的・対話的で深い学びを設計するため, エンゲストロームの探求的学習 (エンゲストローム 2010) の枠組み (図 1) を用いた. 専門が異なる多様な学生 (3 校から 8 名) が同じグループで議論することにより, 探求的学習サイクルの一つ

であるコンフリクト (矛盾, 葛藤, 対立) が生じる利点が確認された. それと同時に, 同サイクルの一つである「方向づけのベース」を学生が主体的に取り組む難しさも認識された.

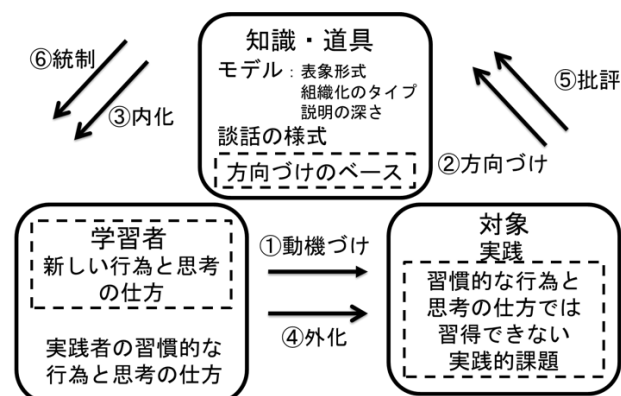


図 1. エンゲストロームの探求的学習サイクル

2015 年度の授業では, 福井県内高等教育機関の単位互換制度を用いて, 後期集中科目として, 事前学習 1 日, フィールドワーク 3 日, 事後学習 1 日 (以降, 毎年同様な日程) で実施した (3 校から 18 名の学生が

参加)。「方向づけのベース」の方法論として、スタンフォード大学の d.school で実践されている「デザイン思考」のマインドセット及びワークシートを取り入れた。デザイン思考のステップ(共感, 問題定義, 創造, プロトタイプ, テスト)を導入したことにより, 方向づけのベース(プロトタイプ)はある程度うまくいくようになったが, 議論の深まりにグループ間で差が生じた。

2016年度は, 福井県の COC+科目「地域社会とフィールドワーク A: 地域課題にデザイン思考で取り組む」として実施した(4校から14名の学生が参加)。グループメンバー間の関係性の違いにより議論の深まりの差が生ずるのではないかという仮説のもと, 関係性を参加者が自ら構築することを意図し, 立教大学の BLP を参考に, 参加者個々にリーダーシップ最小3要素(目標共有, 率先垂範, 同僚支援)を意識させる仕組みを導入した。その結果, 関係性の構築や議論の深まりがかなり改善された。

2017年度は, 4校から18名の学生が参加した。心理的安全性(エドモンドソン 2014)が確保されたコミュニティを形成するため, 2016年度の事後学習に取り入れた質問会議を事前学習から実施した。また, 同じ目的のため, 事前学習からフィードバックシート及びリフレクションシートの記入を毎回実施した。

2018年度は, 5校から27名の学生(中国からの交換留学生5名を含む)が参加した。今回の修正点は, ストーリーテリング(寸劇)の指導を演出家に依頼したことと, 各グループのファシリテーターとして SA (Student Assistant) を導入したことである。また, デザイン思考等のインストラクションもかなり修正した。

本科目は, 福井市中心部から約20km離れた中山間地域の殿下地区で実施している。殿下地区は, 平成23年度で14集落に198世帯514名が住んでいる過疎地域である。地域からの問題提起は下記のとおりである。2014年度は, 地元料理及び殿下地区自体のブランディング。2015年度は, 中山間地における情報の伝達方法。2016年度は, 地域の方を幸せにするムラ・ロゲイニングの設計。2017年度は, 県外の方が訪れたいくなる, 天候に左右されない(雨の日でも O.K.な) インスタ映えるスポット及びハッシュタグを探そう(殿下地区以

外に, 国見地区及び越廼地区もフィールドワーク)。2018年度は, 殿下地区の「ふるさと茶屋(カフェ&ゲストハウス)のアイデア企画。

本稿では, 2018年度の授業設計とそのプロジェクト評価を報告する。

2. 2018年度の授業設計

■第1回(事前学習)

2018年11月3日(土)@福井駅前アオッサ

- 9:00~10:00 オリエンテーション
- 10:00~12:00 発想法演習
- 13:00~13:30 リーダーシップの目標設定
- 13:30~14:30 質問ワーク
- 14:30~16:30 デザイン思考ミニワークショップ
- 16:30~17:00 振り返り



図2. 発想法演習



図3. デザイン思考ミニワークショップ

■第2回（フィールドワーク1日目）

2018年11月4日（日）@福井市殿下地区

10:00～10:30 オリエンテーション

10:30～11:00 福井ふるさと茶屋企画者からの問題提起及び質疑応答

11:00～12:00 ふるさと茶屋運営者からの説明及び質疑応答、ふるさと茶屋の見学

13:00～14:00 フィールドワークの準備

14:00～15:00 フィールドワーク（殿下地区に関わる方へのインタビュー）

15:00～16:00 問題定義（ニーズ、ユーザー、ギャップ、インサイト）

16:00～17:00 振り返り



図4. ふるさと茶屋の見学



図5. フィールドワーク（インタビュー）

■第3回（フィールドワーク2日目）

2018年11月23日（金・祝）@福井市殿下地区

10:00～10:30 オリエンテーション

午前 共感、問題定義

午後 創造（アイデア出し）、プロトタイプ、テスト

16:00～17:00 振り返り



図6. 創造, プロトタイプ

■第4回（発表準備）

2018年11月24日（土）@福井駅前アオッサ

午前 創造（アイデア出し）、プロトタイプ作成、テスト

午後 ストーリーテリング（寸劇）制作

16:00～17:00 振り返り

■第5回（現地での発表及び事後学習）

2018年11月25日（日）@福井市殿下地区

10:00～11:00 ストーリーテリング準備

11:00～12:00 ストーリーテリングによる地元の方
向け発表

13:00～15:00 最終課題レポートのための質問ワー
ク（テーマの再定義）

15:00～17:00 振り返り、アンケート

3. プログラム改善に関するアンケート

最終日の事後学習後に、本科目のプログラム改善に関するアンケートを実施した。その調査を分析した結果の一部を下記に示す。

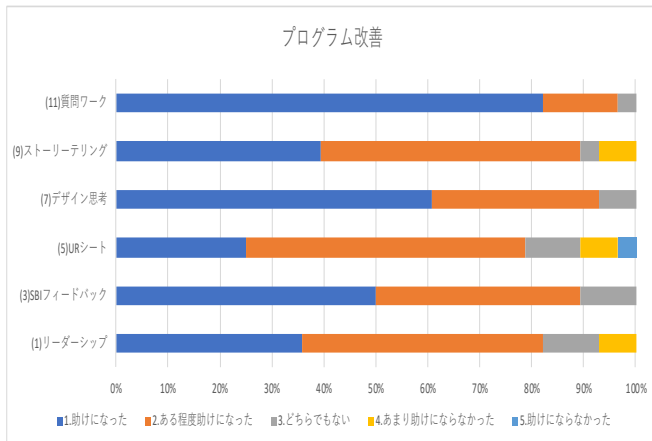


図7. プログラム改善全体の2018年度調査結果

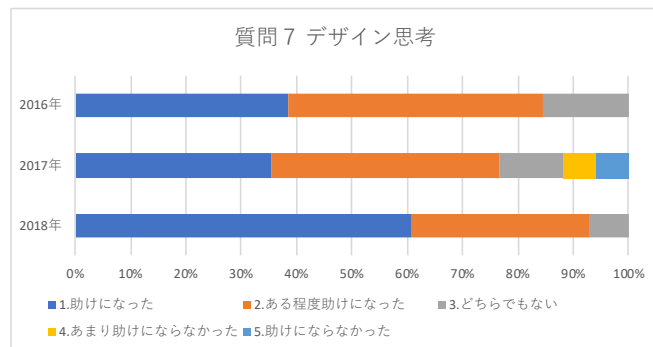


図11. デザイン思考に関する調査結果

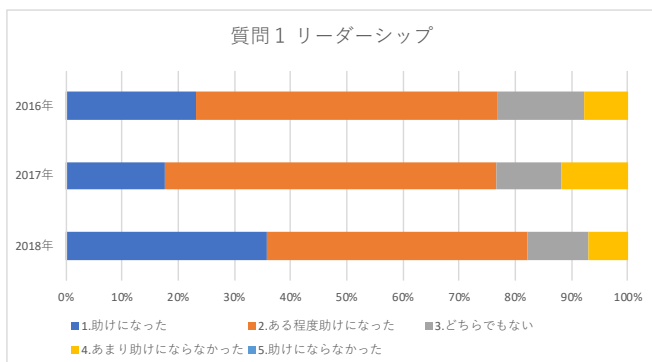


図8. リーダーシップに関する調査結果

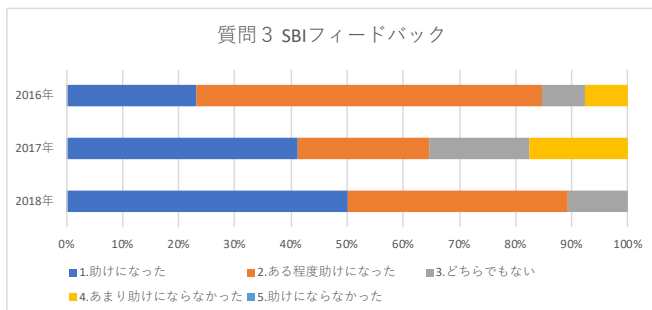


図9. SBI フィードバックに関する調査結果

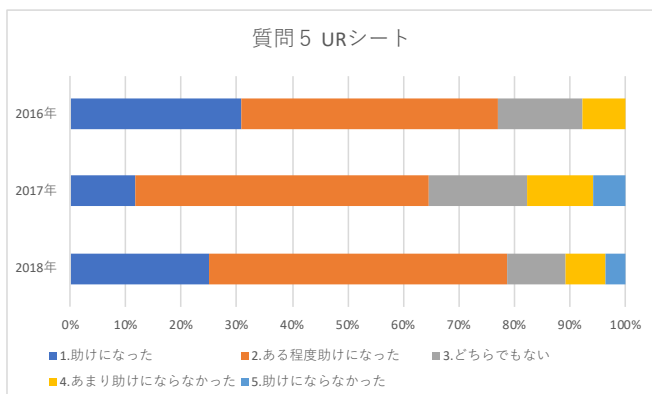


図10. UR シートに関する調査結果

4. おわりに

2018年度は、SA (Student Assistant) によるファシリテーション、劇演出家によるストーリーテリング指導という新たな2項目を導入したが、どちらも効果を得た。また、中国からの交換留学生の参加が良い影響を与えたと考えている。

2019年度の改善点として、SA (Student Assistant) 制度の拡充がある。前期夏休みにファシリテーター養成集中科目を新設した上で、後期集中の地域協働学習プロジェクト科目にファシリテーターとして参加すると、ファシリテーター実践科目の単位が得られる。

参考文献

- (1) ブラウン, ティム (2014) デザイン思考が世界を変える, 早川書房, 東京.
- (2) 日向野幹也 (2013) 大学教育アントレプレナーシップ, ナカニシヤ出版, 京都.
- (3) 田中洋一, 山川修, 谷内眞之助, 長水壽寛, 近藤晶 (2017) ディープ・アクティブのための問いと関係性のデザインと実践II, 日本教育工学会研究報告集 17(1), pp.709-714
- (4) 山川修, 田中洋一, 谷内眞之助, 長水壽寛, 近藤晶 (2017) ディープ・アクティブのための問いと関係性のデザインと実践I, 日本教育工学会研究報告集 17(1), pp.703-708
- (5) ユーリア エンゲストローム (2010) “変革を生む研修のデザイナー仕事を教える人への活動理論”, 鳳書房